



日本聖公会  
大阪教区総務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
総務局長 司祭 内田 望

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) [office.osaka@nsk.org](mailto:office.osaka@nsk.org)

第463号 2018年10月28日発行

以下のメッセージは、9月30日(日)の教区礼拝で中村豊・前神戸教区主教が語られる予定だったものです。教区礼拝が中止となったため、当日は西宮聖ペテロ教会の主日礼拝で用いられました。

本日の礼拝テーマは「証し人はあなた」です。これは、イザヤ書43章の聖句ですが、アジア・太平洋戦争に従軍し



主教 アンデレ 中村 豊

た、聖公会の3人の司祭、その中の一人は私の父・ペテロ中村弘ですが、この人たちの体験を通して、戦争の悲惨さと平和への祈りについて共に考えたいと思います。

戦闘による苦しみ

まず、私の父ですが、朝鮮半島の防衛、日支事変と支那事変に従軍し、最後は九州の

3 司祭の戦争体験と

平和への希求

二日市で終戦を迎え、下関の教会に戻りました。私が小学生の頃、家族の者が寝静まっている真夜中に「ウォー、ウォー、アー、アー、……」という叫び声が、父が寝ている部屋から、聞こえてくるのです。その声之余りにも長く続くので、とうとう私も目が覚めてしまいました。以後、この叫びをしばしば聞くことになるのですが、父は戦後何年経っても、

戦闘に参加しました。サイパン島では4万人いた日本軍將兵のほとんどが玉砕し、生き残った兵隊や民間人の多くが、後に「バンザイクリフ」と命名された崖から身を投げました。一方のアメリカ軍兵士ですが、6万人のうち1万2千人の命が失われました。日本軍の抵抗が激しく、海兵隊員が狂ったように日本兵を殺戮するのを目の当たりにして、

「戦争が終わった後、コールマン司祭は学士入学して、臨床心理学を学ぶ決心をしました。敗戦によってほとんどのものを失い、日本人の多くが精神的な病(PTSD)に苦しんでいるに違いないと思っただからです。下関では日本語を学びながら、徳山の信徒の方々を育て上げ、教会を設立しました。その後、松蔭短大のキリスト教科で臨床牧会学を日本で初めて教えました。父とコールマン司祭が太平洋戦争や中国との戦争についてどのような話を交わしたか全く知りませんし、記録もありません。確かなことは、二人とも直接、敵である兵士と戦い、戦友の多くが命を失うなか、生還することができたという幸運に恵まれた一方、戦闘体験が苦しみを二人に課すことになったのです。」

生の意味を死の声で学ぶ

中国軍との戦闘で体験した死の恐怖を振り払うことができなかつたのです。同じ頃、父のもとに、アメリカからロバート・コールマン司祭がやってきました。徳山に宣教の拠点を据えるために派遣されたのです。コールマン司祭は大学卒業後、アメリカ軍海兵隊に志願して従軍し、1944年6月のサイパン島、その後のテニアン島の

「我々は汚れきつた慢心と国家的虚構の泥沼のなかを彷徨っている、のらくら者なのだ。ドイツと日本の悪は、我々の悪でもあるのだ。どうして、敵のなかにある誤りー非寛容性、偏狭性、独善性などーを選別したり区別したりできよ

櫻井<sup>たか</sup>司祭は横須賀で生まれ、聖公会神学校を出たとき、徴兵をうけて一兵卒として入隊し、盛岡の陸軍予備士官学

校に進み、少尉に任官しました。マレー侵攻作戦に参加して南方戦線で過ごし、サイパン島攻略開始の約3カ月前の1944年3月8日、インパール作戦に参加しました。10万の兵士を動員し、連合軍反攻の中心地であるインド・マニプル州都インパールを攻略するという無謀な作戦でした。結局、インパール占拠の目的は達成できず、転進という名の逃亡が開始されました。

櫻井司祭が属する第28軍約4万人は、英国インド軍の強力な機械化部隊と空軍によって撃破されて、3カ月の間孤立しました。次第に食料も尽き、雨期が重なり体力の消耗が激しく、敵中突破しか選択肢がありませんでした。撤退の道は「白骨街道」とか「靖国街道」と呼ばれましたが、山中を東に移動中、次第に落伍する者も増え、やっと山の上に辿り着き、林のなかで休もうと、木によりかかって休んでいる兵卒の多くが、その形のまま死に絶えました。銃弾が飛び交うなか、敵が待機する地帯を突破し、7月15日、雨期で川幅が200メートルに広

がったシタン河を筏を組んで渡りました。ここでも、多くの兵卒が濁流のなかに消えていきました。結局、4万人の兵のうち3万1千人が命を落としましたが、原因は戦闘ではなく、飢餓と疫病、渡河でした。櫻井司祭が指揮した隊員30名のうち、生き残って生還したのは僅か2名だったのです。

定年退職後、櫻井司祭は亡くなった部下に、本当に申し訳ないことをしてしまったことを懺悔し、戦跡で行われる慰霊祭に出席するため、7年にわたりビルマを訪れました。

「ビルマ戦線の敗走のなかで、私はほとんどの日本兵が、求めるものさえ分からず、死んでゆくのを見ていた。マレー、シンガポール作戦や他の戦線などで、日本の兵隊は『天皇陛下万歳』と叫んで死ぬ、ということを書いた本があったが、私はそのように叫んで死んだ兵の声を一度も聞いたことはなかった。それに反して、イギリス兵は最後の瞬間に『オージーザス・イエス様』と言って死んでいった。だが日本兵の多くは『お母さ

ん』とも、声を出して死んではいなかった。一言もいわずに、無口でじっとだまって死んでいくのが、ほとんどであった。結局、人生とは生と死の問題である。アルファとオメガ（初めと終わり）が人間には分らない。つまるところ、あちら側（彼岸）の声を聞こうとする姿勢がない限り、生と死のもつ意味はついに分らないであろう」と櫻井司祭は述べております。

### 貧しさのなかでの美意識

話を私の父に戻しますが、ある日、母が、夕食のおかずを買ってくるよう父に頼みました。驚いたことに、父はおかずの代わりにパンジーの花苗を買ってきたのです。そしてそれを牧師館の庭に植えたのでした。結局、この夜、兄弟8人の食卓に並んだのは醤油かけごはんだけでした。一方、パンジーの花は数カ月のあいだ咲き続け、それを眺める人たちの心を和ませました。なぜ、父がこのような行動に及んだのか、長い間、理解できませんでした。しかし、父

について、下関の信徒がおっしゃったことが解決のヒントとなりました。

中国での戦闘で父の一隊が中国軍に包囲され、身動きがとれない状態となり、食料も底をつきました。生き延びるために、兵士たちは、食べられるものは何でも食べて飢えをしのいだのです。約1カ月後、援軍がかけつけて、九死に一生を得たということでした。極端な話、お米さえあれば死ぬことはないのです。どんなに貧しくても、困難な状況下にあっても、被造物の美しさに感動する心、自然を愛でる心、これが人間性を豊かにすることに繋がるというメッセージを、父は発信していたと想像します。

### 祈りの力

第二次世界大戦では、同じ

キリスト者が敵・味方に分かれて銃口を向け合い、殺し合いました。太平洋戦争では、ほとんどの宣教師は交換船などで本国に帰りました。そこで一体何をしましたのでしょうか。できることは、日本のキ

リスト者や教会のため、そして、1日も早く戦いが終わることを祈るだけでした。ところが、この人たちの祈りが原動力となって、戦後、海外の教会や関係団体から、復興資金や物資が送られてきました。その最たるものが「ララ物資」であり、日本の子どもたちの飢餓を救いました。英国、アメリカそしてカナダの教会や教会の援助によって、戦後の復興がなされました。海外の人たちの祈りなくしては、今日の教会は存在しないといっても過言ではありません。

祈る人が平和をつくりだします。祈りは全ての平和活動の出発点であり、終着点でもあり、全ての活動の目標です。平和は神からの賜物であり、祈りのうちにこれが与えられるのだという確信をもって行動するのが、私たちの使命なのです。

（なかむら ゆたか・前神戸  
教区主教、学校法人神戸松  
蔭女子学院理事長）

### 大阪聖アンデレ教会

## 教会建て替えに伴い、礼拝堂聖別解除式を執り行う

司祭 ヤコブ 義平 雅夫

9月23日（聖霊降臨後第18主日）、大阪聖アンデレ教会において教会建て替え工事に向けての礼拝堂聖別解除式が執り行われました。1964年に聖別された礼拝堂、聖卓、説教壇、聖書朗読台が磯晴久主教により一つ一つ聖別解除されるさまを約170人の会衆が静かに見守り、聖別54年間の歴史を心に刻みつつその歩みを導かれた神に感謝の祈りを献げました。

先立つての聖餐式で磯主教

は、教会が学校（大学・中高）チャペルの役割をも担う日本聖公会の四つのインスティテュート（立教学院と諸聖徒礼拝堂、聖路加国際大学〈病院〉と聖ルカ礼拝堂、平安女学院中高と聖アグネス教会、そして桃山学院中高と大阪聖アンデレ教会）を紹介され、「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」（マルコ9：35）という当日の福音書をもとに、「新

しい礼拝堂は9階建ての建物の1階に入ることになります。これはアンデレ教会が桃山学院に集う人々に仕え、支えるということなのです」とのメッセージを語ってくださいました。

礼拝後には、桃山学院の出田善藏理事長より「桃山学院はこれからみなさんの心が温まるような礼拝堂を建設して

まいります」との言葉をいただき、一同、喜びをもって式を終えることができました。

今後、聖アンデレ教会は地下鉄昭和町駅から東へ徒歩6分ほどにある「一桃ビル」（大阪市阿倍野区文の里4-21-30）の6階ホールで礼拝を続けます。また新校舎および礼拝堂の完成は2020年の夏を予定しています。皆様の祈りに覚えていただければ幸いです。

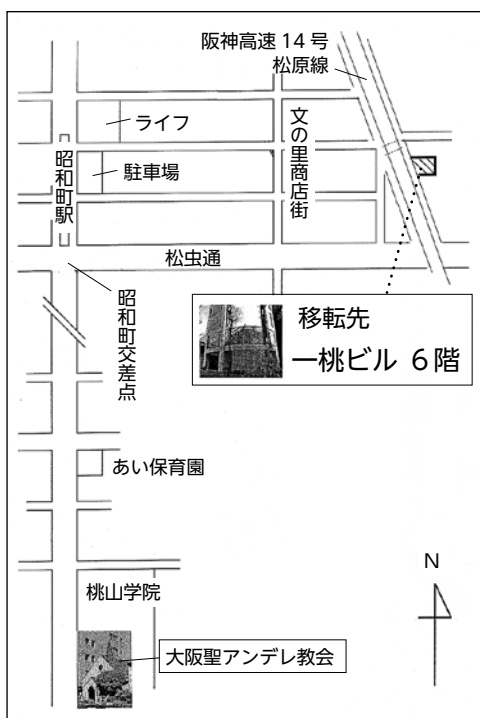
（よしひら まさお・大阪聖アンデレ教会牧師、桃山学院中学校高等学校チヤブレン）



## 教区礼拝、台風のため中止

9月30日（日）に予定されていた今年度教区礼拝は、台風24号接近のため、やむなく中止となりました。午後には予定されていた広島原爆写真展は、大

阪聖愛教会で、10月15日（月）、16日（火）に展示された（15頁「教会・施設の動き」参照）。準備にかかわってくださいました方々に感謝いたします。





# 広島平和礼拝に参加して

## 生々しい証言を心に刻み 悲劇を伝える責務を痛感

吉村 香保

私は8月5日(日)から6日(月)にかけて、広島県を訪問しました。以前からこのプログラムに興味を持っていたので今年参加できて、とても嬉しかったです。

初日は広島女学院の生徒さんたちの元で「核廃絶！ヒロシマ中高生による署名キャンペーン」に参加し、灼熱の太陽の下で各グループに分かれ、道行く人に声を掛けました。



初めはとても躊躇しましたが、すぐに慣れて「たくさんの署名を集めたい」と思うようになります。声を掛けるとほとんどの方が快く了承してくれて、「その上「お疲れさま」「頑張ってるね」といった励ましの言葉をかけてくださいました。広島の方はもちろん、他県他国から来られた方も核廃絶を願っていると思うと、より一層活動に力が入りました。しかし対照的にすぐに拒否の反応をする方もいて思想の差異も感じました。そして夕方からは平和行進

に参加しました。今日のために他府県から来られた人たちと列になり、1時間ほど歩きました。歩いていると商店街に平和にまつわるポスターがあったり、他の団体が行進しているところを見かけました。この様なものを見る度に色々な思いを抱えながら明日を迎えるのだなと思えました。折り鶴を手の平に置き行進しましたが、平和は私たちの手の中にあるが、私たちの言動によって壊れてしまったのではないかと考えました。

そして翌日は朝から原爆犠牲者追悼礼拝に参加しました。8時15分に黙とうを捧げ、その後には被爆証言を聞きました。それはとても衝撃的で、いくつら事前に知っていたことであっても、その時代に生き抜いた人が語るものは生々しく恐ろしかったです。私自身、画面や紙面ではなく直接聞くのは初めてだったので聞きながらとても混乱してしまいました。何十年も前の出来事をゆつくりとお話しされた証言者の方は、時おり苦しげな表情

をし遠くの方を見ていて、胸が苦しくなりました。想像もつかない様な大変な事、悲惨な事があったのだろうと思うと、絶対に忘れてはいけない、過ちは二度と繰り返してはいけないと強く心に刻みました。今回、広島を訪れて、普段の日々が続くことがいかに幸せな事が改めてわかりました。ありがちな感想ですが、本当にこの一言に尽きます。ふと

した瞬間に日常が奪われるなんて想像しにくいですが、現実にあつたことだと思つて頭が真白になります。平和の大切さをずっと心に留めて、戦争が起こした悲劇を二度と繰り返さない為に、被爆者が減少していく今、私たちが後世に伝承していかなければならないと深く思いました。  
(よしむら かほ・プール学院高等学校3年生)

## 研修で学んだ最も大切なこと

### 平和な日常は当たり前ではない

依藤 遥

神戸松蔭女子学院大学に在学中の私は、キリスト教センターから広島平和記念礼拝に参加してみたいかとお声をかけて頂いた。広島へは小学校の修学旅行や中学時に校外学習で行ったが、平和礼拝に参加するのは初めてだった。平和とは何だろうか。

戦争だの核兵器だの恐ろしい世の中に怯えずに、何不自由なく暮らせていることだと考える。現在はそんな恐ろしい世の中ではなく、日本は戦争はしない国となっている。しかし、今から73年前までは日本は真逆の状態だった。毎日のように、空襲警報がなり核兵器を使い、たくさんの方が日本に攻め込み戦争をしてい

う。  
答えは人によって違うだろう。  
私は平和とは、毎日笑って

(次頁につづく)



(前頁よりつづく)  
た。そして、あの出来事が起こった。

それは、広島島の原子爆弾投下である。一瞬にして何万人もの命が奪われ、助かった者も大きな後遺症に見舞われたとてつもなく大きな核兵器が広島に落とされたのだ。

73年経った現在でも、その被害は色濃く残されていた。

訪れた原爆ドームでは、ビルが剥がれていたりコンクリートが剥き出しになっていたり、辛うじて立っている柱など原子爆弾の残骸があった。今まで、想像でしか分からなかった被害を目の当たりにして原子爆弾の恐ろしさを再確認することが出来た。それと同時に、この恐ろしい出来事は、一瞬足りとも忘れてはいけな

いと広島復活教会での礼拝で感じた。私はその礼拝で、学ぶことがあった。

一つ目は、犠牲者の方の苦しみや憎しみ、またその家族の悔しさを一緒に背負って生きていくということである。誰も悪くないのに、たった一つのかけがえのない命が奪われてしまい、その方たちが生きたくても生きることが出来なかつた人生を、私たちが真っ直ぐこれからも忘れずに歩んでいかなければいけないと感じただからだ。

二つ目は、現在は戦争時代を経験した人がほとんどいない世の中になっていて、広島島の原子爆弾投下を知らない世代が増えている中で、私たちが、次の世代に受け継いでい

かなければいけないということである。礼拝に出席していた半数が学生だったこともあり、更にその想いが強くなつた。

そして、受け継いでいくことによって、永遠に平和が続いていくように私たちが力を合わせ、伝えていくことが大事であると考えた。平和記念公園で千羽鶴を奉納していた時も、周りに沢山の千羽鶴があり、こんなにも沢山の人が広島の平和、日本の平和を願っていることがとても素晴らしいことであり、これからも続いて行くことを願っている。

また、今回のこの広島研修で学んだ中で最も大切なことは「今日のこの平和の日常が当たり前ではない」ということであり、この平和を維持することが日本の平和↓世界の平和へと繋がっていくということである。

来年も行かせていただくチャンスがあれば、もっと学習したい。主の平和。

(よりふじ はるか・芦屋聖マルコ教会信徒)

長崎原爆記念礼拝  
松岡虔一司祭が証言

## 長崎原爆記念礼拝 松岡虔一司祭が証言

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

8月10日(金)、今年も長崎聖三一教会で長崎原爆記念礼拝が守られました。福音書後の聖歌が終わると礼拝堂の窓が開けられました。原爆投下の11時2分まで黙想の時を持ち、時刻になると、外では汽笛とサイレンが鳴り、礼拝堂では黙祷が献げられました。

礼拝後、昼食を挟んで松岡虔一司祭が証言されました。記念礼拝の出席者に配布された式文には、松岡司祭の原稿が挿入されていましたが、原稿には記されていない被爆直後のお話を中心に、核の恐ろしさや戦争の愚かさについて

語られました。そして、原爆でご夫人と5人のお子さんを亡くし自身も原爆症で苦しんでおられた長崎聖三一教会の信徒さんについて語られました。その方が松岡安立司祭に話された「先生、イエスさまは十字架上で祈られましたね。父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです」——この一言と祈りから平和の同心円が広がるのだ、と話されました。

\*今年松岡司祭の呼びかけで、大阪教区婦人会から長崎聖三一教会に千羽鶴が送られました。松岡司祭の原稿は大阪教区のウェブサイトに掲載されています。

(ふるさわ ひでとし・大阪聖愛教会 牧師)



# 台湾聖公会との協力宣教キャンプ

## 「子どもの宣教」をテーマに、台湾から20人が参加

協力宣教キャンプ実行委員会委員長 司祭 クリストファー 奥村 貴充

台湾聖公会と大阪教区の交流は、これまではツアーによる交流が主たる内容でしたが、昨年より「協力宣教キャンプ」として活動し合っています。今年のキャンプは8月21日(火)より27日(月)まで堺市の東光学園に滞在し「子どもの宣教」をテーマにして行われ、台湾からは20人、日本側は青年・スタッフ延べ17人が参加しました。

初日は東光学園の概要を学ぶとともに、キャンプの趣旨を共有しました。22日(水)は「こどもの里」代表の荘保共子氏の講演のあと、希望に応じて釜ヶ崎か芦屋・愛光幼稚園の二班に分かれて訪問しました。23日(木)は台風のため高野山周遊を中止し、カップヌードルミュージアムに行き、石橋聖トマス教会のご協力も得てカレーライスとともに食べました。24日(金)は生野の 코리아タウンや大阪第四朝鮮初級学校の訪問で、在日の子



どもたちが置かれた状況を学びました。また18時からは信徒による「持ち寄り食事会」で交流を深めることが出来ました。25日(土)、今回の主たる目的である、東光学園の子どもたちとの交流を行いました。青年たちが前日まで練習を重ねた成果もあって、歌や寸劇、ゲームを通して子ども



愛光幼稚園にて

もたちに福音を伝える交流プログラムは実り多いものでした。26日(日)は堺聖テモテ教会の聖餐式に出席、午後は天王寺で自由行動の時間をもちました。最終日は関西空港まで見送り来年の再会を約束し合い、無事に今年のキャンプは終了しました。

このキャンプで気づかされたことは、福音を伝えたいという青年たちが持つ熱い思いです。伝道に対する熱意と意欲から、こちら側に勇気と希

望を与えてくれたと確信します。またこのキャンプのために多くの方々のご尽力下さったことをこの場をお借りして感謝申し上げます。反省点としては日本側の青年参加者が少なかったこと、広報活動が行き届かなかったことが挙げられます。こうした点を踏まえて来年のキャンプに備えたい次第です。

(おくむら たかみつ・聖贖主教会牧師、聖ガブリエル教会管理牧師)

### 賛美は私の心の中で響く

グレース 重政 恵

このキャンプでは賛美する機会が多かったです。日本と台湾のそれぞれの賛美歌をみんなで歌い、一曲を日本語と台湾語の交互で歌ったりもし

なほど心にぐっとくることもありました。そのくらい賛美は私の心の中で響くことがよくありました。

ました。ギターやパーカッション、ピアノと台湾の方の演奏とともに歌った賛美の時間は毎回とても楽しい時間でした。今でもよく口ずさんでまいります。また、涙が出そう

他にも台湾の方々は賛美体操やゲーム、劇などたくさん用意してきてくださり、ゲームの説明も日本語で覚えていました。本当にずっと前から準備してくれていて感謝と

(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

尊敬の気持ちでいっぱいでした。愛光幼稚園と東光学園の子どもたちとの交流では私が司会をする場面もあったので、私には何ができるのかを考え、私なりのやり方で全力で子どもたちを楽しませようという思いでした。当日、台湾のみんなも言葉の壁も気にならないくらい終始盛り上げてくれて、子どもたちにも楽しんでもらえました。

これだけでなく、釜ヶ崎やコリアタウン、朝鮮学校の歴史や現状についてお話を聞くことができました。大阪に住んでいる私も知らないことだらけで、胸が痛くなったり、感動したり、普段聞くことができないので貴重な経験でした。

また最後の分かち合いでは、このキャンプの感想や感謝の気持ちを伝えました。台湾の方々からは日本のスタッフに対し、また私個人に対しての思いも伝えてもらい、この時には涙が止まりませんでした。

このキャンプを終えて感じたのは、台湾の方々の信仰心

の強さです。この期間で、私自身の神様に対する思いや向き合い方を改めて考えさせられました。本当に濃い1週間を過ごすことができました。この機会を与えてくださった千松清美先生を始め、サポー

### 印象深かった東光学園の子どもたち

学生 羅采沛

トして頂いた教会の皆さん、そして導いてくださった神様に心から感謝しています。できればまた来年も参加したいです。  
(しげまさ めぐみ・庄内キリスト教会信徒)

今回の交流で一番印象深いのは、東光学園の子どもたちです。私は暴力の溢れた家庭で育てられ成長してきましたから、自分にも小さい頃から暴力の傾向があります。人を余り信用できないし、皆の前でもよく本音を隠し、自己偽装していました。幸いに、大きくなって中学生の時にはその状況が改善されました。

回っていたのですが、その時の私は、彼らはずっと私達のことを信じていないのだろう、彼らの中にも苦しみがあるのだろうかと思つて、不意に憐れみの気持ちが湧いて来ました。しかし意外なことに、歌とゲームをした後、子どもたちがだんだん警戒心を解いて心を開き、私達と触れ合い始めました。子どもである彼の心の中心では、愛されて、抱きしめられて、大切にされたいと望むだけなのではないでしょうか。私達は彼らと一緒にいる時間が短くて、何の可能性をもたすこともできないですが、彼らも私のように信仰を

### 「こどもの里」荘保さんの強さに感動

学生 頼澤禹

見つけた時にこそ、自分の価値、自己の強さと周りの人への温かさを見つけられると私は祈っています。言葉は通じないのですが、私は子どもた

今回の大阪での交流キャンプにおいて、一番感動したのは、釜ヶ崎で「こどもの里」を創立した荘保共子さんのストーリーです。彼女は20歳代ごろに釜ヶ崎での社会福祉の事業を着手して、自分の一生をかけて苦しい人達を支えてあげたことを今も続けておられます。このように根気良く、自分と関係のない子どもを守ってあげるといふ愛は、私には想像のできないことです。

子どもが自殺するなど、悲惨なことにも耐えなければなりませんでしたが、彼女の強さに私は感動を覚えました。私もいつか荘保共子さんのように自分を捧げ、苦しい人を助け、弱い人を支え、私の命を生かすことができるようになります。

(Lai Ze-Yu・台湾聖公会 聖ヨハネ科学技術大学)

このように完全に自分を捧げ、家を失った子ども達を介護する能力も、私にとっては遥かに及ばない、偉大で素晴らしいことです。彼女はいろいろな困難に出会ったこともあるし、自分が世話をしている

ちに、「イエス様があなたを愛します」と、叫びたいです。  
(Luo Cai-Pei・台湾聖公会 聖ヨハネ科学技術大学)

# 教会奉仕者及び聖職への道セミナー 大阪・京都の教役者と信徒が参加

イサク 寒河江 研司

今年も8月21日(火)〜22日(水)の一泊二日で、標記のセミナーがカトリック御受難修道会宝塚黙想の家を会場に開催されました。大阪・京都教区の教役者・信徒合わせて25人の参加でした。今回は日本福音ルーテル神戸教会牧師・松本義宣先生に講話をし



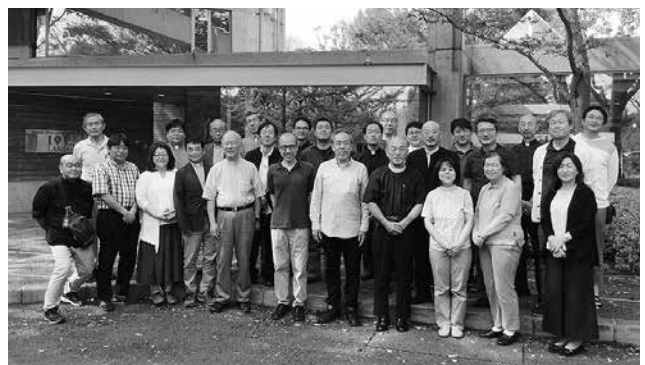
て頂き、「若者に聞く」のセッションでは伊藤真紀さん(彦根聖愛教会信徒)にお話をさせて頂きました。松本先生には、小さな個(歯車)での奉仕ではなく、共同体で歯車として仕える思いで牧師になられた経緯や、5年間客員牧師としてドイツへ出向された経験等を、力強く引き込まれる口調で講話を頂きました。どこが違うかではなく、どこが同じかを見付ける共同性の大切さ、礼拝(神の業、共同体の業)が信仰を育てるという言葉が心に残っています。伊藤真紀さんは、環境問題の学びや研究、自転車ツールとしての働きを経験に、今はハイブリッドへの挑戦の思いを持って自転車で琵琶湖を一周するツア

ーアテンダントをされています。その中でツアー客に琵琶湖の良さをどう伝えるか、どう感じてもらうかを常に深く考えておられる事が、神様の素晴らしさをどう伝えるかという自分の思いと通じる所を感じました。講話の後にはこのセミナーのテーマでもある好きな場所や黙想するというミッションが時間たっぷり与えられます。新たな気づきを与えられる貴重な時間です。参加者達はそれぞれが得た思いを持って、最後に派遣の聖餐式で祝福を頂いてそれぞれの働きの場所へ帰っていきました。なお、聖餐式での信施2万円は西日本豪雨災害の被災者のため神戸教区に献げられました。

(さがえ けんじ・大阪聖三一教会信徒)

## 2018年度 大阪・京都特別協働教区

### 合同教役者修養会 開催される



大阪北部地震の影響で6月に予定されていた大阪・京都両教区合同教役者修養会は、9月26日(水)〜28日(金)大阪府四条畷市の研修施設で行われた。関西学院大学神学部教授・浅野淳博氏(日本聖書協会共同訳聖書翻訳委員)を講師に迎え、2018年12月に発行される『日本聖書協会共同訳聖書』について学んだ。併せて両教区の情報交換と親睦を深めた。出席者は28人(内、大阪教区8人)であった。(編集部)

## 公 示

救主降生2018年10月1日  
日本聖公会大阪教区  
教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第121(定期)教区会を、  
下記のように招集します。

記

- ◆会 期 2018年11月23日(金)  
午前9時(開会聖餐式)から午後5時
- ◆会 場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂  
(川口基督教会)会館  
大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会の書記に下記の者を指名します。

書記 司祭 ヨシュア 原田 光雄  
司祭 ジョージ 林 正樹





# メモリーズ

memories 2018



J's キャンプ編

## もうちょっと ディアコニア



8月1日(水)～4日(土)まで北小松キャンプ場において、中高生参加者18名、スタッフ8名、総勢26名でキャンプを行いました。今夏は36度を超える猛暑の中でのキャンプでした。参加者の安全のため、2日目はクーラーのある大津聖マリア教会に避難し、1日を過ごさざるを得ない状況でした。このような状況において、参加者・スタッフが大きく健康を害することもなく過ごせた恵みに感謝いたします。

今キャンプのテーマは、「もうちょっとディアコニア」。朝夕の祈りにおいて、ルカによる福音書10章38節以下のマルタとマリアの箇所を繰り返

し読みました。私たちは「ディアコニア」という言葉の意味を考え、ただ単に行動として他者に仕え・もてなし合うという表面上の行動だけを大切にするのはなく、神さまの思いに心を寄せ、また共にキャンパー同士の心の思いを慮るということを大切にしました。

大阪・京都教区の各教会のみなさまには、J's キャンプのために多くのお祈りをささげていただいたことかと思いません。この場をお借りして報告と感謝を申し上げます。引き続き中高生の活動を各教会でおぼえていただき、より多くの参加者を送ってくださいませ

すようお願いします。

(京都教区・教育部J's部門  
執事 松山 健作まつやま けんさく)

8月1日から4日までの3泊4日、北小松にて夏の「J's キャンプ」を行いました。今回は、私が高校生キャンプ長を務めることになりました。

これまで参加した皆さんのキャンプの中でも特に楽しかった時のことを思い出しながら、皆が早く仲良くなれるように、どうしたらもっと盛り上がるか、つらい思いをする人がいないようにと必死で考えました。でも、もともと私はノリでぐいぐいみんなを引っ張って行くようなキャラではなく、力不足を痛感しました。最後まで敬語でしゃべる人が残っていたり、中学生と高校生がそれぞれの企画を上下なく一緒に楽しむという風にはいかなかった気がします。

時間と予定に囚われて、い



礼拝中

つものアバウトでイレギュラーな、ノリで楽しむキャンプの醍醐味が薄れてしまったのが残念でした。やりたいことは全部やるというのがキャンプの精神だったはずなのですが、とにか暑くて、急遽、大津聖マリア教会に避難する一幕もあり、みんなの疲れも見て取れたので、事故があつてはと思つたのも確かです。

今まで、考えたことのないことをたくさん考えさせられた、いいキャンプになりました。

(大津聖マリア教会

高校2年生 中田 泉なかだ いずみ)

時が経つのは早いもので、私が初めてJ's キャンプに参加してから実に3年半もの年月が経ちました。私ももう高校生になり、頼れる先輩方も卒業してしまいました。プログラムの時間を高校生だけで決めてしまうなど、後輩



達からは決して「いい先輩」には見えなかったかもしれない。でも、J's キャンプがみんなの一つの居場所として存在していることがとても嬉しいです。

今回のテーマ「もうちょっとディアコニア」はJ's キャンプの本質だと思います。それぞれがそれぞれに「もうちょっと」ともてなし(ディアコニアしよう)という気持ちでJ's キャンプは成り立っているといます。最終日に私達高校3年生は、寄せ書きのTシャツを貰いました。こんな幸せなことがあるでしょうか。

この3年間に、J's キャンプは、これからの私の人生にかけがえのないものを多く残してくれました。

これからもJ's キャンプが、みんな「ディアコニア」し合える素晴らしいキャンプでありますように。

(石橋聖トマス教会

高校3年生 小松 令旺こまつ れいお)



バン格拉タン作製中

キャンプでの体験は特別なものです。日常生活ではなかなかできないこと、また、様々な場所から集まってきた人たちが集まり、交わりを持ちます。この交わりの力が教会の力を強くするのではないかと思います。たくさ

8月7日(火)～9日(木)にかけて小学生キャンプが北小松キャンプ場にて行われました。小学生の参加者が35名、スタッフ24名、計59名でキャ

今年のキャンプテーマは、「Let's Go! ヲウコニア」。キ

ャンプにおいて互いに仕え合う(デアコニア)ということをおこし係という係を通して学びました。

キャンプを行いました。異常な酷暑によりキャンプの開催自体が危ぶまれましたが、当日は気温も若干下がりが吹いており、そこまで暑さを感じることなく過ごすことが出来ました。

# サマーキャンプ Summer camp

小学生キャンプ編

## Let's Go! ビウコニア



(恵我之荘聖マタイ教会)

星がすごくきれいで、大阪ではみれないぐらいすごかった。

☆「ふりかえり文集」より子どもたちの感想をお届けします。

(京都教区・教育部小学生部 門 執事 柳原 健之)

んの子どもたちを送り出していただくのと同時に、大人の方々も参加していただきたいと思っております。

4年生 ヒューム亜咲美

一番たのしかったのは、キャンプファイヤーです。

火がついていなかったときは少しこわかったけど、火がついてから空手ハム(アブラハム体操の空手版)などをして、その後の花火も楽しかったです。来年も来たいです。

(福井聖三一教会 4年生 吉村 東真)

このキャンプとても楽しかったです。何が一番楽しかったかというのと、琵琶湖でおよいだり、しっぽ取りしたり、キャンプファイヤーをしたりして、楽しかったです。なので、一番は決められません。でも、3日間みんなといたれた事がとても楽しかったです。

(桃山基督教会 5年生 古本 理沙)

6年生さいこの小学生キャンプ。もういけないけど、とてもたの



段ボールオープン作製

しかったので、小学生キャンプは大まんぞくです。楽しくあそぶことができました。新しい友だちができてよかったです。

これはやっぱりさいこーなキャンプだー。りょうりもおいしかったです。ジェーズにもいこう。

(大阪聖三一教会 6年生 大西 涼太)

小学生キャンプ、J'sキャンプそれぞれから「ふりかえり文集」が各教会に届いています。そちらの方もぜひお読みください！

家で元気に遊ぶ子どもたちを見ていて考えることがあります。「彼らはどんな発想からこのような遊びをするのだろう」。

「親バカ発言と言われればそれまでですが、うちの子どもに限ったことでは無いはずです。大人が押し入れから布団を引っ張り出す際、その布団に乗ってサーフィンよろしく楽しんでみる。ひたすら段ボールの空箱に身を潜めてみる。室内用の滑り台をプラスチックケースに乗り込んで滑ってみる。「ああ、確かに楽しいだろうな」と感じます。

聖職リレーエッセー ⑤



はってんしない物語

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

私が友人と、よくアホな遊びをしていたのは小学生のときでした。小さな川の対岸に建つマンションに向けて、ロケット花火を打ち込んでみたら、一室の窓が開いて怒られました。工事の資材置き場に停めてあるブルドーザーに数人で乗り込んでみました。幸い鍵がついていたので皆でいじりたおすとエンジンがかかり少し動いた。偉業を達成したように歓喜の声をあげ、通りすがりのおばさんに見つかった記憶があります。

当時を振り返ると、遊びの動機は純粋な好奇心と豊かすぎる想像力だったと思います。マンションに花火を打ち込んだらどうなるのか。相手

も打ち返してくるのか。いつも停まっているブルドーザーは果たして動くのか。そして変身するのか。分別ある大人が子どものように振る舞うのは大いに問題がありますが、幼なごころの全く無い大人も退屈なものです。教会にもある程度の幼ごころがあると、いろんな人たちとより豊かに主を賛美できるのでないだろうかーなどと考えながら、好奇心と想像力を育てるように子どもたちと遊んでいます。

※次回はクリストファー・奥村貴充司祭にお願いします。(ふるさわ ひでとし・大阪聖愛教会牧師)



在日学習会シリーズ

大阪城南キリスト教会で

「宋富子氏講演会」を開催

愛するとき平和の奇跡が創られる

司祭 クリストファー 奥村 貴充

わたしは差別意識の強い地域で生まれました。今ではかなり改善されたようですが、幼少の頃はあらゆる差別が公然と行われている中で育ちま

したので、自分の中に差別心がないと言うとそれは嘘になります。

こうした課題と向き合い、正しい歴史理解と共に生きる社会の実現を目指して、在日学習会シリーズが行われています。今回は9月24日、大阪城南キリスト教会にて「愛するとき平和の奇跡が創られる」という主題で宋富子さんによる講演会が行われ、37人が出席しました。宋富子さんは幼少の頃から受けてきた理不尽な差別による苦しい体験談を出席者一人ひとりに語りかけるように講演し、一体となった感じで講演会が進められていきました。やはり実体験に基づく話は聞く人の心に響くものがありました。特に印象深かった一言は「正義と平和を創る『信友』になって



(次頁4段目につづく)

### 世界の窓

○フィリピン聖公会・台風による壊滅的な被害

フィリピンの情報筋は、台風マンクット（日本では台風22号）による犠牲者を74人であると一時的に報告

していたが、最終的にその数字よりはるかに高くなる可能性があると発表した。この台風による被害は甚大で、フィリピン中部から500万人もの人々が移住を余儀なくされた。

フィリピン聖公会（以下、ECP）のフロイド・ラレウェット弁護士は「住宅などの建造物が破壊され、我々の共同体は建物の修復や再建に全力を投入している。農場では強烈な暴風雨によって、四半期の収穫が完全に吹き飛ばされた。また、犠牲者の中にはECPの聖テモテ教会信徒の4人が確認されている。我々は負傷者の回復と亡くなった方々のための祈りを求めている」と訴えた。アングリカ同盟は、ECPとオーストラリア聖公会の援助機関であるABMに対して緊密な連絡を

取り合い、具体的に必要とされる援助を調査したうえで、他の機関と連携した地球規模での連絡会を調整するとしている。その間、ABMはECPからの援助要請に応え、オーストラリアで緊急な必要性を訴えて10万オーストラリア・ドル（日本円で約820万円）を募っている。被災地域はECPの7教区中4教区に広がり、約300の教会と教会に関わりのある100以上の共同体が、台風によって多面的なダメージを受けている。

＜Anglican Communion News Service, September 18th, 2018＞

○ロンドン教区：運河に浮かぶ教会が完成

ロンドン教区は、「2020年までに100の新礼拝共同体を」というプログラムの一環として、新たな教会を建立した。今回築造されたのは「リバー・リー・ナビゲーション」に浮かぶ巨大な船舶教会で、聖コロンブス教会と名付けられた。現在は運河に浮遊する教会建造物となっているが、最終的にはこれから建造

される浮き橋に設置予定である。エイドリアン主教は「運河の水と祈りによって水に浮かぶ教会を祝福した後、同僚や友達と共に聖コロンブス教会の立ち上げができたことは大きな喜びであった」と語り、「まだ完成されたわけではないが、キリストを中心とする証しのある教会を目指す我々にとって、この東ロンドンの礼拝共同体は明確で肯定的なものとなるだろう」と述べている。なお、「リバー・リー・ナビゲーション」とは、テムズ川の支流であるリー川を中心に幾重にも広げられた全長80キロ以上の人造運河で、現在、上水道および水上運搬のために利用されており、多くの公園やリクリエーションの場所としても名高い。

（前頁よりつづく）  
下さい」という言葉でした。今回の在日学習会シリーズを受けて感じたことは、祈りをもってひたむきに取り組む宋富子さんを神さまは用いられるということ。正義と平和のための働きは、一度は挫折を味わいますが、もう一度立ち上がったといった体験談を宋富子さんは語りました。やはり真理を求めて取り組む人には周囲からの理解が得られ、自ずと道が備えられているのだと思います。思い返せば、今も差別によって苦し

大阪キリスト教連合会講演会 2018

## カトリック教会の諸宗教対話

第2パチカン公会議における  
諸宗教対話思想とその発展

講師：ロッコ・ヴィヴィアーノ神父  
(カトリック大阪大司教区司祭)

日時：2018年11月26日(月)  
午後6時～8時 (開場5時30分)

会場：大阪聖パウロ教会

**参加無料・申し込み不要**

主催：大阪キリスト教連合会

い思いをしている人がたくさんいます。主はわたしたちをういて正義と平和の実現に向けて導こうとされています。あらゆる差別は終わっていません。今も続いているからこそわたしたちは主の御心を祈り、求めていく必要があります。この機会を通して、この日本社会で生きる自分とは何者なのかを問うていきたいと思えます。

（おくむら たかみつ・聖贖主教会牧師、聖ガブリエル教会管理牧師、在日韓国・朝鮮人宣教協働委員長）

# 教 区 の 動 き

## 常置委員会報告

8月10日(第11回臨時)  
 9月6日(第12回定例)  
 9月25日(第13回臨時)

### I. 主教報告 及び諸報告

\*台風被害により、教区館では入口の掲示板が激しく歪み、ガラス板が損壊。主教邸の駐車場わきのフェンスが損傷。屋根瓦数枚剥がれ雨樋破損。事務所の窓ガラスに飛物が貫通し破損。これらに対し修復工事を依頼中。

\*台湾交流キャンプ、及び夏に予定されていた諸行事すべて無事に終了。

\*大阪聖アンデレ教会の礼拝堂仮移転についての報告。9月23日(日)の礼拝堂聖別解除礼拝の信施金は「主教座聖堂修復のため」に約13万円が献げられた。

礼拝出席者は166人。

\*川口基督教会(主教座聖堂)の聖堂補修状況、及び関連諸行事の変更・中止等について。

### II. 協議事項

\*管財委員会と合同で、教区共同墓地設置について、候補地の見学及び意見交換。「墓地設置委員会」(仮称)を定め準備作業を行い、教区会への議案上程は来春の臨時教区会で行う予定。

\*9月30日(日) 教区礼拝信施金の献げ先を「災害緊急支援資金」とし、台風や地震による各地の被災状況にあわせて、送り先を検討する。

\*北海道地震により被災した北海道教区へ見舞金として「災害緊急支援資金」より10万円を送金することを了承。

\*神戸教区より台風被害に対する見舞金10万円が大阪教区に献げられたので、主教座聖堂(川口基督教会) 修復工事に充たせていただくことを確認。

\*沖繩で10月1日(月)〜4

日(木)に開催される「在日韓国出身教役者の集い」に韓相教司祭と柳時京司祭に参加願うことを了承。(以上)

### 教会・施設の動き

#### 尼崎聖ステパノ教会

○8月11日(土) 日曜学校デイキャンプを行い、プール遊び、流しソーメン、たこ焼き作り、花火と楽しい一日を過ごしました。

○9月16日(日) 長寿感謝礼拝を行い、77歳以上の方16人のお祝いをしました。

#### 守口聖オーガスティン教会

○10月27日(土) 「Jazz 土居 ストリー」演奏会場の一つとして、当教会が選ばれました。

○11月4日(日) 13時30分から守口オータムフェスタが開催されます。桂吾之輔さんによる寄席とミニバザーを行います。ご参加ください。

#### 聖ルシヤ教会

○第6回チャペルコンサート  
 日時11月4日(日) 午後2時開演(1時30分開場)

出演 パルフェ・ムジーク・アカデミー(女声アンサンブル)  
 当日、午前10時30分、主日礼拝として当教会の逝去者記念礼拝(諸聖徒日) 聖餐式を行います。

大阪聖三一教会  
 ○8月26日(日) 午後、恒例の「平和朗読会」を行いました。沖繩での平和記念日に朗読された相良倫子さんの詩『生きる』を小学校上級生が朗読、クラリネットとオルガンの伴奏で、幼保年長児と大人の合唱サークルがそれぞれ讚美歌・聖歌を歌い、平和の大切さを覚え、祈る時を持ちました。異年齢参加型の催しで、それぞれが懸命に役割を担いました。

#### 大阪聖三一教会

○8月26日(日) 午後、恒例の「平和朗読会」を行いました。沖繩での平和記念日に朗読された相良倫子さんの詩『生きる』を小学校上級生が朗読、クラリネットとオルガンの伴奏で、幼保年長児と大人の合唱サークルがそれぞれ讚美歌・聖歌を歌い、平和の大切さを覚え、祈る時を持ちました。異年齢参加型の催しで、それぞれが懸命に役割を担いました。

○教会バザー 11月3日(土) 11:30〜13:30  
 ○クリスマス市 12月2日(日) 12:30〜

#### 大阪聖パウロ教会

○ウィリアムス竹内信義司祭の提案で、豊中3教会と協働し、日本にきた難民への緊急支援を開始しました。関西で

は難民支援に関わる唯一の団体(NPO)『RAFIQ(らふいーく)』で、その意味は(ともだち)です。豊中市・東三國の『なんみんハウス』を拠点に活動しています。詳しくは同団体のHPをご覧ください。

#### 大阪聖パウロ教会

○10月27日(土) 当教会と宣教協働するJOC S関西事務局は、大阪JOC S共催で第25回「オープンサタデー」を開催しました。

林 律医師が「我が国2番目のハンセン病病院の悲劇」と題して、リデル・ライト医療宣教師が設立した『熊本回春病院』と、その後の国の閉鎖命令に関する紛争を語られた。

○12月22日(土) 15時より、毎週土曜日当教会を練習会場にされている『ワイブナ・ミュージック・コーラス・グループ』(主宰・小池容子さん)が、日本でも珍しいハワイアン・ゴスペルソングと極上のフラによる『ハワイアン・クリスマスコンサート』を開催します。当団体の見学ご希望やコンサートについてのお問合せは下記まで。

waipunamusiccool@gmail.com

大阪聖愛教会

○9月30日(日)に予定されていた教区礼拝の中止に伴い、当日午後に関催予定だった広島原爆写真展を、大阪聖愛教会で10月9日(火)から27日(土)まで開催予定でしたが、

写真をお借りしている広島復活教会で、今月末に修学旅行生を迎えることになり、急遽返却することになりました。

そのため、写真展の開催期間を10月15日(月)、16日(火)に変更いたしました。来会者は2日間で16人でした。急な予定変更のため、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。

石橋聖トマス教会

○8月18日(土)・19日(日)、当教会「子どもの集いJOY」と庄内キリスト教会「サンデークラブ」の子どもたちが合同で、「夏のお泊り会」を庄内キリスト教会を会場に行った。0歳から中学生までの子ども19人が参加した。

○豊中3教会(東豊中聖ミカエル教会、庄内キリスト教会、石橋聖トマス教会) 協働の一環として、6月から主日礼拝

の聖歌は同じものを用いている。2カ月ごとに、三つの教会のオルガニストや選曲担当者が集い、それぞれの主日の聖書箇所を分かち合いながら、選曲作業を行っている。

聖公会生野センター

○こみち寄席

日時 11月12日(月) 午後7時(開場6時30分)

場所 聖公会生野センター2階(地下鉄千日前線小路駅より徒歩10分、近鉄今里駅より徒歩15分)

席料 1000円(障がい者割引有)

出演 笑福亭仁嬌、林家菊丸、玉田玉秀齋、月亭八織

問合せ NPO法人聖公会生野センター

Tel 06-6754-4356

祝受洗



○大阪城南キリスト教会

フランシスカ 小牟田裕女

(8月19日)

○高槻聖マリヤ教会

タビタ 中島 妙子

(10月7日)

祝受按



○大阪城南キリスト教会

フランシスカ 小牟田裕女

(8月19日)

○石橋聖トマス教会

ハンナ 長野 怜子

(9月2日)

○高槻聖マリヤ教会

アグネス 太田 裕子

ヨセフ 太田 創一郎

ヒルデガルト 河上 春香

ダビデ 川崎 一輝

タビタ 中島 妙子

(10月7日)

魂の平安を

祈ります

○高槻聖マリヤ教会

マリヤ 辻本 秀子

(8月10日・86歳)

アンナ 八木 恵子

(8月22日・74歳)

ハンナ 荒本 康子

(8月28日・95歳)

釜ヶ崎 講演会とフィールドワーク

2018年11月17日(土) 15時から

会場: 喜望の家(日本福音ルーテル教会) 大阪市西成区萩之茶屋2-8-18

1部 講演会

講師: 生田武志さん(野宿者ネットワーク代表)

2部 フィールドワーク

16時30分頃 喜望の家出発 案内人: 生田武志さん

問合せ先

担当: 小西宏平

電話 080-5338-5123 / メール ganador5@hotmail.co.jp

または、大阪聖愛教会 06-6771-4123(古澤司祭)

\*会場へ直接のお問い合わせはご遠慮ください。

主催: 日本聖公会大阪教区 宣教局 社会宣教委員会

後援: 日本聖公会大阪教区 宣教局 在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会

管区事務所編集 11月初旬発行

聖公会手帳 2019

- 日記と年鑑を兼ねた便利性!
- 教会暦・日課表を完全収録!
- 教会・伝道所と関連施設が、直ぐわかる
- 紙質を軽量化して使いやすさを追求!

○大型判 2,200円 / 通常判 1,200円(税込)

申し込みは聖公書店(Tel 04-2900-2771)、またはお近くの書店まで。

教区関係教役者  
逝去者記念聖餐式

◇ 11月14日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ペテロ 竹林徑一司祭

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムズ (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940 英)

◇ 12月12日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 テモテ 内田望司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
- 2日 主 教 チャニング・ムーア・ウイリアムズ (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 19日 司 祭 ダニエル 小池 虔二 (2014)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 10 時 30 分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

○尼崎聖ステパノ教会  
グレース 古川三重子  
(8月16日・90歳)  
中西 糸

○川口基督教会  
ダビデ 鈴木 瑋三  
(8月18日・78歳)  
アグネス 鈴木 壽恵  
(8月18日・74歳)

○石橋聖トマス教会  
シメオン 水野 寛  
(9月4日・85歳)

○恵我之荘聖マタイ教会  
マリヤ 栗井 操  
(10月3日・99歳)

○堺聖テモテ教会  
ハンナ 島田 崧  
(10月6日・88歳)

○大阪城南キリスト教会  
ユニケ 近藤安禎子  
(10月17日・75歳)

お詫びと訂正  
教区報第462号の掲載記事に

以下の誤りがありました。訂正してお詫びします。

9ページ・常置委員会報告(主  
教報告)(1段目)

\*西原廉大司祭(中部教区)

(誤) 立教学院副総長

(正) 立教学院副院長

10ページ・教区関係教役者逝  
去者記念聖餐式

(9月) 説教者

(誤) ペテロ松山龍二司祭

(正) フランチェスコ成岡宏  
晃司祭

「京都・大阪 協働と共同ニュース」訂正とお詫び

「京都・大阪 協働と共同  
ニュース」(第2号)の記載  
に誤りがありましたのでお詫  
びして訂正いたします。

司祭

1. (誤) 聖ルシア教会

(正) 聖ルシヤ教会

\*4頁・聖職試験委員会構成  
メンバー(2名)

(誤) ウイルソン・ウォー  
レン司祭

(正) ウイルソン・ウォー  
レン司祭

(誤) 中村 充之

(正) 中村 允之

\*3頁・石垣 進司祭の教名

(誤) マーセ

(正) モーセ  
\*3頁・ヨシユア原田 光雄